

審査にあたりて

第二十一回市美展の審査を終えて、審査員一同ひとしく感じたことは、特に図抜けた作品が見当らず、横一線の群雄割拠の戦国時代を思わせる感があった。

とくに書の年齢層が刻々と老年の域に到達し、若い人々の活躍が見当らず心さびしい思いをしたのは私一人ではあるまい。

とにかく、書は、白い紙・黒の墨・わずかに印泥の朱色が映える（いずれも原色）地味な、長い年月と練磨が要求される芸術である。

それ故か現在の若人達にとって、受け入れる素地が極めて少ないものになっているのかもしれない。また、裏を返せば、だからこそ老年層の魅力を誇って止まないものがあるのかもしれない。

当いわき市は、書に関し地方都市としては相当の高いレベルを誇っている。「古をおもって今を活かす」更に確かな足どりで、自分自身の道を見つけて欲しい。

世は平成とはいえ、昭和の残像を揺曳して進んできたが、ここにきてバブル経済の崩壊等々社会の様相は一変し、本当の意味で平成の確かな足どりとなってきた。われわれ書人もまた己をふりかえり、古典にきびしく対峙し、書いて書いて書きまくり、自分の垢をそぎおとし、もう一度「書とは何か？」を問い合わせし、確かなものを掘みとて平成の世にむけて進んで欲しいものである。

審査員長 村上皓南

※努力賞

三賞、佳作賞受賞者を除く一般入選者の中から、これまで本展で受賞歴のない作家を対象とし、審査員が任意に若干名を選定します。

※新人賞

三十歳以下の若手作家を対象とし、受賞は三回までを上限とします。若手育成を目的に設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名を選定します。

第21回

書の部入賞者

賞 名	作 品 名	作 家 名	住 所
いわき市長賞	和王逸賀繁臺詩	谷津形雲	
いわき市議会議長賞	吳昌碩詩	高久香扇	
いわき市教育委員会教育長賞	衆如蜂聚	江尻苦遙	
《佳 作》			
いわき商工会議所会頭賞	春待	細井研堂	
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	劉廷芝詩	金賀香楓	
いわきライオンズクラブ賞	劉睡起	齊藤王寧	
福島県報徳社賞	黃山谷詩	閔根溪石舟	
	吳昌碩詩	猪狩桂舟	
	七言律詩	鈴木花泉	
	十言對句	斎藤泰山	
株式会社すまい賞	千曲川旅情の歌	細井清子	
有限会社トーカイ賞	立春後十日登樓	芦川雪舫	
株式会社箱崎美術広告社賞	吳昌碩詩	坂本一道	
魁文堂賞	送郵州節判	伊藤抱琴	
	白居易詩	小林千恵史	
		齋藤柳	
株式会社ヨーカドー賞	西陵詩	長谷川素穎	
有限会社平電子販販売部賞	蘇東坡詩	河邊素月	
	松下獨酌	津藤幹莊	
	七十言二句	馬目香楊	
遠藤一心堂賞	暗驚梅	大河原一醉	
	六言二句	門馬春錦	
	雲中至日	服部桂山	
	花時遍遊諸家園	猪野直之	
	岑參詩	高野晶生	
いわきビル設備管理センター賞	杜甫詩	大平峰生	
常交サービス賞	五言絕句	及川峰絃	
株式会社日本オーラービルサービス賞	惜華風起頻	永山閑遠	
いわき市書道協会賞	次勝島仙坡	池田青松	
	杜甫詩	斎藤枝雪	
	六言二句	飛田疎竹	
努 力 賞	四字句	松本大濤	
	地	藤田桂	
	蘇東坡詩	澤野涼泉	
	杜甫詩	渡部紫葉	
新 人 賞	陳輔詩	鬼沢笙園	
	魏靈藏薛法紹造象記	上遠野朱園	

所 感

展覧会の審査といふものは、師風のものまねであれ、古典を踏まえての創作であれ、作家の良心と審査員の潔癖とに相俟って、技法上の巧拙を審査するほかないのである。

ねがわくば師風追従でなく、古典立脚の中から、自分を確立しつつある情感こまやかな書、心底から言いたいこと、あらわしたいことを訴える書にめぐりあうことを願い、真摯な作品を見逃すことのない様に、審査眼を集中したつもりである。

展覧会の出品者は誰しも入賞したい気持であることはわかるが、技術のわざといふものは、いちだんいちだん上っていくもので、根氣のいることだと思う。決して憚てたり、急いだりしてはいけないことだろう。

私は、入賞したかどうかということより、むしろ、喜びの中で、楽しさの中で、書き込みが出来たかどうかということが、より大切だと思われるのだが、如何なものだろう。

審査の眼はもとより各人各様であり、各審査員の白紙による、一票一票を求める、その重なりで入賞者を決めた。

現在いわき書壇にも新しい変革の波動があり、おのずから胎動してくるものを、楽しみにしていたのだが、今回展にはまだそのひびきはきこえてはいない。

来年以降に、期待するもの大である。

審査員長 綿引千斎

※努力賞

三賞、佳作賞受賞者を除く一般入選者の中から、これまで本展で受賞歴のない作家を対象とし、審査員が任意に若干名を選定します。

※新人賞

三十歳以下の若手作家を対象とし、受賞は三回までを上限とします。若手育成を目的に設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名を選定します。

※祝文一覧表は、受付・各展示室に備えてあります。ご自由にご参照下さい。

第22回

書の部入賞者

賞 名	作 品 名	作 家 名	住 所
いわき市長賞	元好問詩	金賀香楓	
いわき市議会議長賞	河上立春詩	谷津彫雲	
いわき市教育委員会教育長賞	吳昌碩詩	高久香扇	
《佳 作》			
いわき商工会議所頭賞	杜甫詩	鈴木花泉	
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	梅谿詩	猪狩桂舟	
いわきライオンズクラブ賞	秋夜詩	齋藤柳史	
福島県報徳社賞	飒鼎句	江尻苔逕	
	七言二句	馬目楊紋	
	單文昔年句	佐藤朱遠	
	馨香襲我音	永山研堂	
株式会社すまい賞	風十言句	細井泰山	
有限会社トーカイ賞	曉發音	齋藤苑山	
株式会社箱崎美術社告広賞	彭王詩	吉村翠峰	
魁文堂賞	文治詩	及川寧絅	
	蘇東坡詩	王碩山	
株式会社ヨーカドーマルト平電所販売部賞	周長壁發參天	服部桂子	
	冬閃天り	笠原峰子	
遠藤一心堂賞	滄海横流	門馬錦峰	
	己酉元日	箱崎峰松	
	十一言聯句	池田青雲	
	題居隱元	田嶋舫	
いわきビル設備管理センター株式会社賞	杜甫詩	芦川雪柳	
常交サービス株式会社賞	夜寒清露	園部翠柳	
株式会社日本オフィスビルサービス賞	對鶯歌	大河原香	
いわき市書道協会賞	萬葉の歌	助川翠	
	蘇東坡詩	大平峰生	
	臨吳昌碩西冷印社記	関根石溪	
努 力 賞	黃庭堅詩	高野晶	
	菜根譚	津藤幹莊	
	歸去來辭詩	落合牛洲	
	七言律詩	坂本小葉	
	夏宗祁詩	箱崎玲香	
新 人 賞	風來花自舞	小松玲香	
	五言二句	園部泉城	
	"	金井友子	

審査にあたりて

今回は昨年に比し 20 数点減で、招待・特別出品を含む総出品数 235 点であった。そのうち審査の対象となる数は、211 点である。

作品の内容は、横一線にならんだ A 群と、まずまずの B 群、ようやく条幅になじめて来た C 群と、大要 3 つのグループにわけられる。

選ばれた作品は、これぞと思う頭抜けた作品ではなく、群雄割拠の状態で一寸した工夫勉強の差が出て、明暗をわけた様に思われた。

作品創りの過程で、字面のよいものを選ぶ。この草稿作りの段階で、もっと時間をかけて欲しかった。また、自分の持っている枠に合わせて、自分の発想した作品がどの様にうつり映えするかも、大切な要素である。

書はその人の自画像であって、自分の姿が、心象風景が筆を託して紙上にニジミ出てくる。その人の全人格をぶっつけて、初めて作品となる強烈な仕事である。それを人は芸術であるという。やってもやらなくても、時の流れは容赦しない。少しでも前へ歩を進め、与えられた天命を精一杯生きるもっとギリギリの切迫感があれば、みる人の胸をうつ作品になったであろう。自分自身の魂をゆさぶり、こみ上げてくるものがなくて、なんで他人の感動を呼ぶことが出来ようか。

皆さんはまだまだ書けるのだが、書かないのではないだろうか。自分自身を甘やかして。「人生白露の如きしさか寿命あり、明日はなきものと知れ。」禪林老宿の言葉である。

書に対する執念をもやし、今を大切に更に飛躍して欲しいと、切に望む次第である。

審査員長 村 上 皓 南

※ 努力賞

三賞、佳作賞受賞者を除く一般入選者の中から、これまで本展で受賞歴のない作家を対象とし、審査員が任意に若干名を選定します。

※ 新人賞

三十歳以下の若手作家を対象とし、受賞は三回までを上限とします。若手育成を目的に設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名を選定します。

※ 釈文一覧表は、受付・各展示室に備えてあります。ご自由にご参照下さい。

第23回

書の部入賞者

賞 名	作 品 名	作 家 名	住 所	
いわき市長賞	謝 公 亭	齊藤 柳史		
いわき市議会議長賞	妍 英 弄 芳 意	永山 閑遠		
いわき市教育委員会 教 育 長 賞	李 白 詩	金賀 香楓		
《佳 作》				
いわき商工会議所 会 頭 賞	吳 昌 碩 詩	高久 香扇		
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	う つ ろ 二 句	細井 研堂		
いわきライオンズクラブ賞	七 言 白 詩	馬目 香楊		
福島県報徳社賞	李 白 詩	谷津 形雲		
	"	少室 南 原	河辺 素月	
	"	白 樂 天	高野 晶	
	"	懶 築	吉田 芎紅	
株式会社すまい賞	月	光	細井 清子	
有限会社トーカイ賞	陶 淵 明	閑	柳晃	
株式会社箱崎美術 広 告 社 賞	游 春	齊藤 王寧		
魁 文 堂 賞	金 城 鉄 壁	江尻 苑苔		
	"	杜 甫 詩	木磐 水	
	"	春 日	伊藤 抱琴	
株式会社ヨーカドー マ ル ト モ 賞	送孫良玉還同安	及川 峰絃		
有限会社平電子 印 刷 所 賞	恢 然	門馬 春錦		
	"	馬 鐸 詩	木花 錦泉	
	"	竜	藤田 雪桂	
遠 藤 一 心 堂 賞	出 清 遠 峠 野 望	飛田 疎竹		
	"	孟 郊 詩	斎藤 枝雪	
	"	吳 昌 碩 詩	箱崎 香峰	
	"	雪 中 遣 興	芦川 航筋	
いわきビル設備管理 センターブル社賞	題諸葛谼田家壁	阿部 風景		
常光サービス社賞	告 子 章 句	大平 生峰		
株式会社日本オイ ラービルサービス賞	梅 花	大河原 一醉		
いわき市書道協会賞	十 言 対 句	鈴木 松香		
	"	晚泊揚子江口述懷	猪野 直之	
	"	花 名 龐 客	猪狩 桂舟	
努 力 賞	十 言 二 句	齋藤 泰山		
	"	王 維 詩	服部 桂山	
	"	吳 昌 碩 詩	相川 芳苑	
	"	老子道德經一節	下遠野 恵洋	
	"	劉 長 卿 詩	鈴木 光萌	
新 人 賞	嶺 南 道 中 陽	大喜多 吟秋		
	"	重 谷 津 淑	渡辺 洋夫	
	"	臨 黄 庭 堅		

第24回

書の部入賞者

賞名	作品名	作家名	住所
いわき市長賞	杜甫詩	齊藤王寧	
いわき市議会議長賞	画有六法	江尻苔逕	
いわき市教育委員会教養教育長賞	こがらし	細井研堂	
《佳作》			
いわき商工会議所頭賞	呉昌碩詩	箱崎香峰	
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	呉昌碩詩	高久香扇	
いわきライオンズクラブ賞	僧善住詩	谷津彤雲	
福島県報徳社賞	曹植詩	金賀香楓	
	"	送賈文學入京	鈴木花泉
美術館友の会賞	守愚詩	門馬春錦	
株式会社すまい賞	五言律詩	河辺素月	
有限会社トーカイ賞	方丈記	細井清子	
株式会社箱崎美術賞	漁人	猪狩桂舟	
広告社賞	魁文堂賞	世路有風波	永山遠山
	"	五言律詩	及川峰絃之
	"	五言律詩	猪野直晶
有限会社平電所賞	陸游詩	高野晶香	
	"	李白詩	鈴木松香
	"	七言二句	馬目楊
遠藤一心堂賞	金碧山水二首	池田青松	
	"	杜甫詩	木磐水
	"	六言二句	吉田蓼
	"	歐陽修詩	大河原一醉
	"	西峰	吉村翠苑
勝山堂賞	牧水のうた	坂本道一	
	"	吳昌碩詩	笛原東邨
	"	袁凱詩	阿部景風
いわきビル設備管理センター株式会社賞	王昌齡詩	伊藤抱琴	
株式会社日本オイラービルサービス賞	満則覆	磯上月涛	
いわき市書道協会賞	李白詩	大平峰生	
	"	万葉歌春秋	高萩龍翠
	"	路僧妙造像記臨	服部桂山
努力賞	李賀詩	関晃柳	
	"	李商隱詩	小野泰山
	"	望野詩	馬上里風
新人賞	独蓬詩	笛崎雪虹	
	"	丁澎詩	根本李鳳
	"	李傑詩	鈴木美代子

審査を終えて

本展も、書・絵画・彫塑の三部門に加えて今回より陶芸、写真の部が新設されるなど、いよいよ芸術文化の充実した体制が整ってきた。大変よろこばしく力強いところである。

さて、審査を終えて感じたことは、年々質が向上し、作品づくりも巧妙になって見応えがある、ということである。今後は、人と人とを感動で結ぶ表現とは何か、その原点を古典に学びつつ、現代的表現の創造にもっと積極的に挑戦していくべきであろう。というのも、高等学校「書道」や最近の書道界全体の動きをみると、一般市民の方々が、より書に親しみその魅力を充分楽しむことのできる表現の探究が行なわれているからである。

私たちは、21世紀に向けて、多くの人々にそして、未来世代に生きたかたちで着実に伝えていくという大きな課題を背負っている。

失敗を恐れず、果敢な挑戦が望まれているのである。

審査員長 田久奇峰

※努力賞

三賞、佳作賞受賞者を除く一般入選者の中から、これまで本展で受賞歴のない作家を対象とし、審査員が任意に若干名を選定します。

※新人賞

三十歳以下の若手作家を対象とし、受賞は三回までを上限とします。若手育成を目的に設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名を選定します。

※祝文一覧表は、受付・各展示室に備えてあります。ご自由にご参照下さい。

第25回 書の部入賞者

審査雑感

今年は書の部創設から、二十一年になる。その間順調な進展をみせ、いわき市民のいわき市ならではの美展に成長した。

今回の特徴でもあるが、最近変わった作風が顕著に見受けられ、多種多様な傾向が一段と強くなってきたのは事実である。一堂一派にかたよらない展覧会の本来の姿にあるを、確認するとともに喜びたい。



二十一年も制作にたずさわると、技術的な馴れから巧みになり、楽になり、水準はある程度保たれる。だが一定の型にはまり、安易なうちに自己満足という落し穴におちいる嫌いが生じる。いわゆるマンネリズムで、これだけならよいのだが、書のあるべき原位置の存在を忘れ、軌道からはずれたでたらめな仕事をするようになる。これが怖い。

各人いろいろな嗜好があろうが、自己の覚悟の問題、いつもよく見、考え、疑り、苦労して正しい見解のもと、しっかりした基盤と歩むべき方向性を認識すべきだと思う。



表現に対する類型化も、問われよう。仕方がないとはいえ、それを黙止してしまうのは困る。試行錯誤があってもいい、失敗を恐れずに目的をもって挑戦する意欲を求めたい。それが結果として、新鮮で独創性につながる。

「書は人なり」の言葉がある。人格の表現が書だと解すると、單なる物真似に終始して自分の像がないのは、淋しく無念ではないか。

これはまず私自身に課せられる問題だが、本展を機に諸賢も真剣に熟慮すべき事柄だと思う。

審査員長 佐々木 折 柴

※努力賞

三賞、佳作賞受賞者を除く一般入選者の中から、これまで本展で受賞歴のない作家を対象とし、審査員が任意に若干名を選定します。

※新人賞

三十歳以下の若手作家を対象とし、受賞は三回までを上限とします。若手育成を目的に設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名を選定します。

※積文一覧は、受付・各展示室に備えてあります。ご自由にご参照下さい。

賞 名	作 品 名	作 家 名	住 所
いわき市長賞	八 言 二 句	馬 目 香 楊	
いわき市議会議長賞	夕 映 え	細 井 清 子	
いわき市教育委員会教育長賞	白 居 易	谷 津 彰 雲	
《佳 作》			
いわき商工会議所頭賞	元 好 問	金 賀 香 楓	
いわき市文化団体連絡協議会長賞	吳 昌 碩	高 久 香 扇	
いわきライオンズクラブ賞	必 得 其 寿	江 尻 苔 遷	
福島県報徳社賞	白 楽 天	高 野 晶 純	
	異 石	及 川 峯 絃	
美術館友の会賞	查 慎 行	鈴 木 花 泉	
株式会社すまい賞	曉 移	細 井 研 堂	
有限会社トーカイ賞	居 氣	門 馬 春 錦	
株式会社箱崎美術社広告賞	羊 士 誇	齊 藤 王 寧	
魁 文 堂 賞	頬 山 陽	服 部 桂 山	
	高 青 邱	鈴 木 松 香	
印 刷 所 平 電 子 賞	林 通 勒	斎 藤 柳 史	
	王 暗 驚	斎 藤 枝 雪	
遠 藤 一 心 堂 賞	と き	坂 本 一 霞	
	于 謙	菜 花 琴 道	
	賈 島	河 邊 素 雪	
	杜 甫	猪 野 直 月	
	館 中 新	伊 藤 抱 琴	
	臨 銀 雀 山 漢 墓 竹 簡	台 椒 花	
勝 山 堂 賞	王 維	閔 晃 柳	
	吳 昌 碩	猪 猎 舟	
	輪 万 葉	大 河 原 醉	
いわきビル設備管理センター株式会社賞	洪 洪 昇	高 萩 龍 翠	
株式会社日本オイラー・ビルサービス賞	臨 趙 之	阿 部 景 風	
いわき市書道協会賞	寒 居 延	根 溪 石 代	
	司 空 曜	山 野 邊 未 舫	
努 力 賞	朱 恬 烧	芦 川 雪 松	
	曹 丕 排	池 田 青 松	
	五 言 律	中 村 小 萌	
新 人 賞	臨 金 文	佐 川 利 亭	
	楊 峴 流	川 竹 正 治	
	良 寛 詩	谷 津 静 一	
	臨 孫 秋 生 造 像 記	勝 山 小 燿	

第26回

書の部入賞者

審査所感

第26回市美展「書の部」は、昨年より82名の驚異的な出品増をみた。

審査に当たりては、作品本位の厳しい姿勢で臨んだ。入賞作品の作者層は、例年の如く、ほとんどといっていいくらいに同じ顔ぶれが揃った。入賞作品群と、入賞出来なかった作品群との断層が大きく隔たりがある、このクラスの更なる奮起を促したい。

よく口の端に上る言葉に「個性」がある。個性とは、人と違った字を書けばよいという簡単なものではなく、いわゆる「独善」的なひとりよがりであってはいけない。文字を、白い紙に黒一色の墨でかく書は、個性の表現が出しにくい分野の芸術である。

ながい間勉学精習し、ひとりで自然に、心に滲む汗の様なもので、紙に対峙し、己自身の今の瞬間を如何に表現するか？自己を問い合わせ禅の修行の姿と同じである。すなわち、書に対する思想のあるなしが個性といえよう。

思想とは、心の在り方であり、心を自分の体の中から掘みとて引き出してみせることではなかろうか。「心」それは得体の知れない、この上もなく厄介なものである。精神の衝動・心のざわめきを、自己の欲するところに従い、自在に表現出来る境地に到れば、それは素晴らしいことだろう。

今回展は、93歳・94歳の3名の方々の出品がみられ嬉しい限りであった。94歳まで生きること自体むずかしいことなのに、なお且つ元気で筆を持ち、確かな字が書けることは素晴らしいことである。今回審査員全員の拍手をもって「努力賞（生涯現役賞）」を設け、これを讃えることとなった。

審査員長 村上皓南

※努力賞

三賞、佳作賞受賞者を除く一般入選者の中から、これまで本展で受賞歴のない作家を対象とし、審査員が任意に若干名を選定します。

※新人賞

三十歳以下の若手作家を対象とし、受賞は三回までを上限とします。若手育成を目的に設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名を選定します。

※証文一覧は、受付・各展示室に備えてあります。ご自由にご参照下さい。

賞名	作品名	作家名	住所
いわき市長賞	掲羲献之規	永山閑遠	
いわき市議会議長賞	張籍詩	斎藤柳史	
いわき市教育委員会教長賞	白居易詩	高野昌	
	《佳作》		
いわき商工会議所頭会連絡協議会会長賞	賈思伯碑	金賀香楓	
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	奥の細道抄	細井研堂	
いわきライオンズクラブ賞	吳昌碩詩	猪狩桂舟	
福島県報徳社賞	見賢思齊	江尻苔逕	
	李春白詩	小林千清	
美術館友の会賞	杜甫詩	細井齊藤	
株式会社すまい賞	七言二句	馬目香楊	
有限会社トーカイ賞	七言詩	馬関柳	
株式会社箱崎美術広告社賞	李煜詩	馬錦春	
魁文堂賞	朱德有詩	朱鈴木	
	朱夢炎詩	泉安	
	朱臨敦煌詩	殿暉	
有限会社平電子印刷所賞	吳昌碩詩	高坂久	
遠藤一心堂賞	牧水のうた	本根一	
	杜甫詩	根岸溪峰	
	杜雑良詩	大平吉	
	朱寬詩	村翠	
	朱潤詩	伊抱	
勝山堂賞	朱陸游詩	小口天	
	朱陸艷於赤城詩	箱崎香	
	王維詩	崎木松	
いわきビル設備管理センター株式会社賞	王良臨周詩	河辺素	
	周廣漢詩	齋藤泰	
常光サービス賞	周廣風詩	大河原一	
株式会社日本オーラービルサービス賞	周廣梅詩	吉田藍	
いわき市書道協会賞	臨竜門造像記	新妻祥	
	如	藤田桂	
	臨魯伯愈父匾	下遠野惠	
	臨比丘道匠造像記	山田鐵	
	臨銀雀山漢墓竹簡	台椒	
努力賞	五言律詩	金成文	
	陶潛詩	片桐峰	
	陶韋應物詩	前田雲	
努力賞（生涯現役賞）	李白詩	柴野嶺	
新人賞	李白詩	小野静流	
	傳山詩	木田湛周	
	山中答俗人	猪狩志保	

審査にあたって

本展も今回で27回を迎える、市民の芸術活動の中核として、いわき市の文化向上に大いに貢献してきたことは、まことに喜ばしいかぎりである。

今年の書の部の総出品数は275点で、昨年より27点の減であった。そのうち審査対象の作品は252点で、40点を入賞とした。

審査にあたっては、市民の展覧会という本展の性格上、公正さには充分配慮し、慎重かつ厳正に行なった。

今年の作品全般に言えることは、全体の構成に工夫がみられ、装飾性にすぐれた作品が多いということである。しかし古典を充分踏まえた上での創作といった点では、もの足りなさを感じた。その点入賞作には、作者の日頃の研鑽と努力のあとが感じられ、人々に感動を与えるものが多くみられた。

さて昨今、情報化の急速な進展に伴い、コンピューターを利用して文字を書くようになってきている。文字には、ことばを書くという「実用の側面」と、そこに知らず知らずのうちにその人の美意識が加わる「芸術の側面」とがある。それらは切り離しがたく一体となって展開してきたのが「書の歴史」であった。コンピューターの文字とは、言うまでもなく実用の側面であるが、一方の側面のみの強調は、人間の本性や文化をゆがめることになりはしないかと思う。もう一方の側面、つまり、はるか中国の殷王朝から今日まで、人々が創意を豊かに燃やし続け、美しくいろいろとてきた書の「芸術の側面」に、あらためて注目することは意義深く、大切なことであろう。一本の線を引くにも、その太さ、長さ、方向、筆勢など、その人のいつわらざる人間性がじみ出るのであって、そこに人々の生きざまが反映され豊かな文化が形成されてきた。

情報化が進むなか、こうした書の魅力を特に若い人たちに伝えていくことは、より豊かな文化を築くためにも、きわめて重要であるように思う。

審査員長 田 久 奇 峰

※努力賞

三賞、佳作賞受賞者を除く一般入選者の中から、これまで本展で受賞歴のない作家を対象とし、審査員が任意に若干名を選定します。

※新人賞

三十歳以下の若手作家を対象とし、受賞は三回までを上限とします。若手育成を目的に設けられたものであり、毎年審査員が任意に若干名を選定します。

※記文一覧は、受付・各展示室に備えてあります。ご自由にご参照下さい。

第27回 書の部入賞者

賞 名	作 品 名	作 家 名	住 所
いわき市長賞	呉 昌 碩 詩	高 久 香 扇	
いわき市議会議長賞	西 行 歌 六 首	細 井 研 堂	
いわき市教育委員会 教 育 長 賞	七 言 二 句	馬 日 香 楊	
《佳 作》			
いわき商工会議所 会頭 賞	白 居 易 詩	高 野 晶	
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	曹 植 詩	金 賀 香 楓	
いわきライオンズクラブ賞	臨 金 文 文	江 尻 苑	
福島県報徳社賞	枕 草 子	細 井 清 子	
	吳 昌 碩 詩	猪 狩 桂 舟	
美術館友の会賞	敦 煌 漢 簡	殿 塚 聖 安	
株式会社すまい賞	杜 甫 詩	及 川 峰 紘	
有限会社トーカイ賞	吳 昌 碩 詩	箱 崎 香 峰	
株式会社箱崎美術 広 告 社 賞	潘 岳 詩	大 平 山 生 遠	
魁 文 堂 賞	書 芸 首 殷 商	永 山 閑 虹	
	張 泌 詩	笛 崎 和 多 利	
有限会社平電子 印 刷 所 賞	韓 琦 詩	鈴 木 泉 風	
遠藤一心堂賞	王 琢 詩	木 部 風 月	
	戴 叔 倫 詩	阿 邊 景 素	
	杜 甫 詩	河 邊 龍 翠	
	万 葉 の 歌	高 萩 花	
	韋 応 物 詩	台 椒 寧	
勝 山 堂 賞	王 維 詩	齊 藤 翠	
	万 葉 の 歌	助 川 空	
	春 甫 詩	大 河 原 醉	
いわきビル設備管理 センター株式会社賞	杜 東 坡 詩	服 部 一 桂	
	蘇 千 林 惠	小 村 翠 苑	
	東 坡 詩	吉 村 翠 菩	
常光サービス賞	七 言 二 句	吉 田 紅 菴	
株式会社日本オイ ラービルサービス賞	臨 甘 肅 木 簡	鈴 木 香 香	
いわき書道協会賞	唐 詩 二 首	菜 花 琴 雪	
	法 震 詩	猪 野 直 之	
	臨 龍 門 造 像 記	新 妻 祥 雲	
	漢 古 射 詩	小 林 峰 玉	
努 力 賞	章 嘉 祯 詩	藤 田 桂 雪	
	劉 禹 锡 詩	草 野 畦 芳	
	良 寛 詩	鯨 岡 恒 翠	
努力賞(生涯現役賞)	山 人 所 居 句	佐 藤 祥 園	
新 人 賞	五 言 絶 句	木 田 湛 周	
	臨 楊 峴 語	小 野 静 流	
	論 元 雅 弘	秋 元 雅 弘	

審査妄評

今年の出品総数は、229点で、昨年より46点の減です。現今の世情などいろいろな原因があると推測しますが、過去には見られなかった現象で、何とか対策を講じなければならぬと、真剣な悩みが募ります。

それはそれとして、本展では肝心の作品の質が間違なく低下しています。残念ながら、審査をして偽らざる実感です。

今まで県内外の展覧会に、勝るとも劣らないいわき書会のレベルの高さを自負していたのですが、平然としていられぬ憂慮すべき問題となりました。



学生時代の英語のテキストで、「三要」という題の文章を習った記憶があります。物事につき、まず、(1)観察し、(2)比較し、最後に(3)判断するといった内容だったと思います。

私の経験から、自作の前に立つという態度は、恥ずかしさのあまり仲々出来ず、精一杯度胸の要するものです。それを敢えて実行してみて下さい。

自作の個々の字について、次に行を追い、総合的な立場で全体を眺めてみる。続いて周囲との比較を試みる。周囲を含めて自分なりに判断し、自作の善悪を的確に下す。



「三要」は書とは関係のないようですが、実は深い関係があるのです。展覧会への参加の効用を含め、書を学ぶ必要不可欠な要素ではないでしょうか。この実験により、作品の進歩向上が計られること受合いでです。

審査員長 佐々木 折 柴

第28回 書の部入賞者

賞名	作品名	作家名	住所
いわき市長賞	西行歌六首	細井研堂	
いわき市議会議長賞	慮周藻密	江尻苔逕	
いわき市教育委員会教育長賞	洪昇詩	及川峰紘	
《佳作》			
いわき商工会議所頭賞	吳昌碩詩	猪狩桂舟	
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	元好問詩	金賀香楓	
いわきライオンズクラブ賞	臨銀雀山漢墓竹簡	台淑花	
福島県報徳社賞	錢起詩	小林千恵	
	七言二句	菅崎雪虹	
美術館友の会賞	臨居延漢簡	殿塚聖安	
株式会社すまい賞	枕草子	細井清子	
有限会社トーカイ賞	朱夢炎詩	鈴木花泉	
株式会社箱崎美術広告社賞	杜甫詩	吉村翠苑	
魁文堂賞	六言二句	鈴木和多利	
	陸游詩	児玉愚禮	
	吳物榮詩	新妻弘子	
有限会社平所電子賞	王維詩	服部桂山	
遠藤一心堂賞	謝重輝詩	阿部景周	
	皇甫冉詩	木田湛周	
	俞渝桐詩	齋藤王寧	
	後撰和歌集	高萩龍翠	
	傅山詩	金成文子	
勝山堂賞	朱鼎鉉詩	河邊素月	
	風定落花深	永山閑遠	
	潘岳詩	大平峰生	
いわきビル設備管理センターリー株式会社賞	対鳶歌	大河原一醉	
	宋之問詩	小林峰玉	
常光サービス株式会社賞	翁照詩	猪野直之	
株式会社日本オイラー・ビルサービス賞	王漁洋詩	井之上葉舟	
いわき書道協会賞	純熙門馬春錦		
	七言二句	佐藤峰苑	
	陳觀詩	高野晶	
	賈島詩	鯨岡恒翠	
	楊万里詩	伊藤抱琴	
	白雲無根	小林昭夫	

※祝文一覧は、受付・各展示室に備えてあります。ご自由にご参照下さい。